

Wikiによる研究活動支援のための利用履歴の解析

Wiki Access Log Analysis for Supporting Research Activities

豊浦 正広¹
Masahiro Toyoura

村上 正行²
Masayuki Murakami

西口 敏司³
Satoshi Nishiguchi

角所 考⁴
Koh Kakusho

美濃 導彦⁴
Michihiko Minoh

京都大学大学院 情報学研究科¹

Graduate School of Informatics, Kyoto University

京都外国語大学 マルチメディア教育研究センター²

Research Center for Multi-Media Education, Kyoto University of Foreign Studies

大阪工業大学 情報科学部³

Faculty of Information Science and Technology, Osaka Institute of Technology

京都大学 学術情報メディアセンター⁴

Academic Center for Computing and Media Studies, Kyoto University

1 はじめに

大学の研究室で行われる教育は、直接対話によるものが多い。これは他の多くの企業や研究所の研究室にも当てはまる。直接対話を行うためには複数の人間が同じ場所と同じ時間を共有する必要があり、十分なコミュニケーションが行われないことがある。これに対し Wiki[1] は、直接対話を持つ時間的・空間的制約の一部を解放するツールである。我々の研究室では、この Wiki の特長に着目し、2004年9月から研究室関係者を対象に Wiki による研究活動支援を行ってきた。

Wiki を用いた研究活動支援の問題点は、アクセス頻度が各個人に一任されているために、個人によっては Wiki 上での研究活動に全く参加しないことが起こることである。Wiki を用いた効果的なコミュニケーションを実現するためには、Wiki のコンテンツを各利用者にとって魅力的なものとし、多くの利用者が高頻度で Wiki にアクセスする状況を作る必要がある。

そこで我々は、利用者がどのような目的で Wiki にアクセスするかを知るために、利用者のアクセス傾向を、利用者のアクセス頻度別に調べた。

2 利用頻度別アクセス傾向の解析

2005年12月19日～2005年12月25日の7日間において、1回以上のアクセスを行った21人の利用者のアクセスログを解析対象とした。

まず、一日の平均アクセス頻度を基に、利用者を3つのグループに分類した。この分類によって、利用者はおおよそ3分の1ずつに分けられた。

- ・ 3回以上アクセスする利用者 (高頻度利用者)
- ・ 1～3回アクセスする利用者 (中頻度利用者)
- ・ 1回未満しかアクセスしない利用者 (低頻度利用者)

次に、Wiki の各ページを作成された目的別に、手動で以下の4つに分類した。複数の目的を持つページについては、書かれた内容の傾向を基に、多くの分量を占める内容に従って分類している。トップページについては、各利用者が Wiki にアクセスするときに最初に表示されるページであるため、別分類とした。

- ・ トップページ (トップ)
- ・ 研究内容に関するページ (研究)

- ・ マシン設定や研究生活に必要な事柄について書かれたページ (情報)
 - ・ 上記以外の私的な内容が書かれたページ (日記・その他)
- 以上の分類に基づいてアクセス傾向を調べた結果を表1に示す。

表1 利用頻度別のアクセス傾向

利用者分類	トップ	研究	情報	日記・その他
高頻度利用者	23.6%	20.7%	31.0%	24.7%
中頻度利用者	9.1%	27.3%	40.9%	22.7%
低頻度利用者	24.1%	16.7%	46.3%	13.0%

表1から、どの利用者も「情報」に分類されるページを相対的に高頻度で閲覧しており、Wiki は研究室内で「情報」共有の場として有益な場であると認識されていることがわかる。

また、高頻度利用者は「日記・その他」に分類されるページによくアクセスする傾向が見られ、一方、低頻度利用者は「情報」に分類されるページによくアクセスする傾向があった。このことから、必要な「情報」だけを求めて Wiki にアクセスする低頻度利用者に対して、「研究」、「日記・その他」に分類されるページに対してのアクセス頻度を上げることができれば、Wiki 全体に対するアクセス頻度の向上が見込めるといえる。

3 おわりに

本研究では、Wiki のアクセスログを解析することにより、高頻度利用者と低頻度利用者のアクセス傾向の違いを調べ、低頻度利用者のアクセス頻度を向上させるための方策について検討した。

今後の課題として、研究や日記・その他に分類されるページを充実させ、低頻度利用者に対してアクセスするように働きかけることを挙げる。また、この働きかけの効果について、数値的評価を行う手法について検討を行う必要がある。

参考文献

- [1] 伊藤 久祥, “Wiki を利用した研究室内情報共有と演習支援の試み”, 信学会教育工学研究会, 2004-7.